



やすらぎ

芙蓉会

理事長挨拶 医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

梅雨明け以降、猛暑日が続き改めて体調管理の大事さが身に染みております。スタッフの離脱者が無く、この夏を乗り切る事が当面の目標です。

前回に引き続き、外国人労働者関連の報告をさせていただきます。7月末に面談を兼ねてフィリピンに再訪し、以前に視察した現地の送り出し機関にて、数名の応募者の面談を実施して参りました。今回重要視したのは、コミュニケーション能力と、日本で介護の仕事に就きたいという強い意志があるかという点。現在の特定技能実習生の制度では、在留期間が最大5年。介護福祉士の資格があれば、期限無しで働き続ける事ができるため、面談においては介護福祉士の資格を目指したいという声も多く聞かれました。現地の関係者の方々の熱意については、既に認識しておりましたが、数日前から面接会場付近に宿を取り、万全を期していた等、面談者の本気度についてはそれを上回るものでした。中には日本語が堪能な方もいて、何年も準備を重ねながら日本で働くことを期待して面談の機会を待っていたとのこと。面談結果が、良いマッチングになっていることを期待します。

今後は、受け入れ側である当法人の対応策が必要となります。以前から法人内において、特定技能実習生受け入れへの協力をお願いはしてきましたが、先日実



施した職員向けのアンケートでは、総論賛成各論反対の結果。受け入れる側の不安の声もあり、多くの部分での体制整備が課題となります。実習生に学んでいただけでなく、受け入れ側としても生活環境に慣れるための様々な配慮、相互の理解とルール作りが重要なのは言うまでもありません。日本における介護職の数は現状でも足りないと言われている中、外国人労働者に対する期待は増え続けると認識しております。外部における認知度が低い為、住居探しの際、外国人入居を拒否されるオーナーもまだまだ多いのが現状です。これらを全てクリアするには時間を要しますが、面談者の熱意に報いる為にも、担当者一丸となって、全力で取り組んでいく所存です。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)

- ・ふよう病院
- ・ふよう病院介護医療院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション



2023 年 6 月院内研修『食中毒 ～原因と対策～』

発行者：株式会社クリニコ 藤本 静香 様

内 容：食中毒の原因と対策について説明をしていただきました。主要な原因菌やウイルスによつての対策の違いや、細菌性食中毒予防の3原則「つけない」「ふやさない」「やっつける」といった注意点だけでなく、「口をつけたペットボトルで 30℃・48 時間時間後にどれくらい細菌が増殖するか」や、食器用スポンジを清潔に保つ方法など身近な話題もあり交えていただき、理解を深めることができました。



2023 年 6 月一般職員研修『オーナーシップ編』

発行者：株式会社インソース中嶋講師

内 容：介護職の中堅職員 42 名を対象に行いました。「オーナーシップ」とは自分が担当する仕事を、責任を持って主体的に取り組む姿勢を指す言葉で、一言で表すと「当事者意識」や「責任感」となります。指示を待たずに自ら考えて自主的に行動し、他人事にせず、常に当事者意識を持ち合わせて仕事をしていくためにはどうしていけば良いか。また、人に伝えること、人を育てることの難しさだけでなく、ヒントを多くいただき、今後に役立つ良い研修になりました。

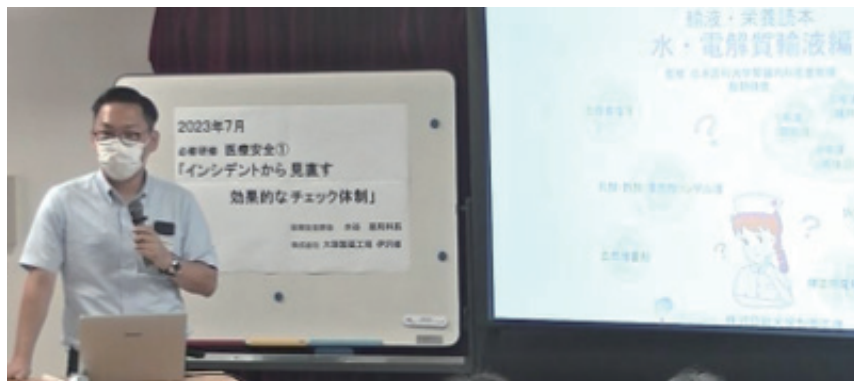


2023 年 7 月院内研修『インシデントから見直す効果的なチェック体制』

発行者：医療安全部会 水谷薬局科長 (株)大塚製薬工場 伊沢様

内 容：今回の研修は2部構成で、水谷薬局科長が輸液を取り違えそうになったインシデントを取り上げて、正しいチェックの仕方としてダブルチェックをすることの有効性や方法を説明

し、後半は(株)大塚製薬工場 伊沢様より、「輸液の種類」や「電解質」について、また脱水には「水分欠乏型」と「ナトリウム欠乏型」、両方が欠乏する「混合性脱水」があり、診断により投与する輸液にも違いがあることなどを説明していただきました。



2023 年 7 月介護ワークショップ研修

発行者：株式会社真経営 早川講師

内 容：ふよう病院介護医療院の職員を中心に 24 名を対象に行いました。法人として初の試みで、これまでの経験を振り返りながら、自分達の仕事の意義や介護観、職場の強みや魅力等を多角的に考え、出席したメンバー全員との対話での気づきを活かしながら、新入職員でも働きやすい職場のビジョンを作成し、コミュニケーションや指導などへの当事者意識を醸成することを目的としていましたが、参加者の反応も良く、もっと多くの職員に参加してもらいたい内容でした。

